

厳島神社は、1996年（平成8年）12月に、世界文化遺産に登録された。瀬戸内海に浮かぶ宮島内のその区域は社殿を中心とする厳島神社と、全面の海及び背後に聳える弥山原始林を含む森林431.2ヘクタール。宮島の人口は約300人。

宮島口からフェリーに乗ること約10分で、厳島神社。予約しておいたガイドさんに約1時間島内を案内してもらおう。観光客は厳島神社境内まで多く、そこを外れるとあまりいない。

まず、出迎えてくれたのが、人慣れした鹿で、島内のあちこちにおり、昔、奈良の東大寺から連れてこられたといわれているそうである。昼間は、神社の周りで、夜は山で暮らしているようだ。しっかり観光名物の一役をかつている。

厳島神社に向かう表参道商店街にある交番や郵便局そして公衆トイレ等の建物は古い町並みに邪魔にならないように景観に配慮されたつくりになっており、また町家通りの白壁やベンガラ格子の宮島商家の佇まいに合うようにプロパンガスのボンベやクーラーの室外機に至るまで、通りで目につくところは、板で囲うなどされており、とても感心した。また、商店街の通り頭上には日除けの工夫がされており、手動で自在に絞ることができるなど、とても興味深かった。電線の地中化も一部されており、国からの交付金が足りなくなって、途中であるという説明であった。

厳島神社の社殿の創建は、推古元年（593）といわれており、言うまでもなく大変歴史が古い。2、3年前の台風被害もすっかり修復され、宮島のシンボルと言われる大鳥居とともにこれまでも幾度となく海の災害に見舞われてきたとは思えない程美しく、弥山を背後にし、広く横に広がる形の神社の鮮やかな朱塗りと檜皮葺きの屋根など、平安時代の寝殿造りは、荘厳である。

夕方には、フェリーで宮島口まで戻り、タクシーで数分のところの当日の宿となる宮島グランドホテルへ。夕食後、ホテルから出る船で、厳島神社のライトアップ見学にでかけた。大小の灯籠に火が入り、大鳥居・厳島神社・五重塔や他の多くの塔にライトアップされているのをエンジンが止められた船から眺めた。ライトアップにより建物が海面に映り、昼間とは違う景色を見せてこれもまた美しい。船からは遠いが、引き潮で、陸が広がっているらしく、大鳥居の下を狸が歩いているのが確認され、船内ガイドによると大変珍しいということだった。

世界遺産センターがないのがつくられていないのが、大変残念だった。厳島神社の世界遺産登録は、広島の前爆ドームと抱き合わせということもあり、予算がなかったといわれている。

